

古典鍵盤楽器製作家のおふたりをお招きし、
フォルテピアノ（太田垣至氏 製作）、チェンバロ（唐田友裕氏 製作）、
スクエアピアノ、チェンバロの4台を演奏するトーク&コンサートです。

＊トーク&コンサートの後に、太田垣氏と唐田氏による楽器解説を行います。
司会：三ヶ田 美智子 [ピアノ調律師 | 一般社団法人日本ピアノ調律師協会会員]

- ー E. クーブラン
《神秘の障壁》
- ー W. A. モーツァルト
ピアノ・ソナタ
第13番 変ロ長調 K. 333
- ー クララ・シューマン
《3つのロマンス》Op. 11 より
第1番 変ホ長調
- ー ニルス・ヴィルヘルム・ガーデ
《水彩画》Op. 19 より
- ほか



児玉真子 — Mako Kodama [演奏]
岐阜県各務原市生まれ。愛知県立芸術大学ピアノコース卒業後、2018年にロータリー財団の奨学金を得て渡独。ドレスデン音楽大学ピアノ科修士課程、ライプツィヒ演劇音楽大学古楽科フォルテピアノ専攻修士課程を修了。2021年よりオランダに拠点を移し、ハーグ王立音楽院にて Bart van Oort, Petra Somlai, Richard Egarr 各氏のもとで研鑽を積む。2022〜2025年度 Adriana Jacobsa Fund Awards 受賞。現在はオランダを拠点に、フォルテピアノニストおよびピアノニストとしてヨーロッパ各地で活動している。これまでにピアノを井深阿佐子、國井真美、上野栄美子、小坂圭太、北住淳、Pa Kater、フォルテピアノを Eckhart Kuper 各氏に師事。

愛知県立芸術大学

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114
0561-76-2873 (平日9:00-17:30)
<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/>

- ー 地下鉄東山線「藤が丘」駅下車後、
リニモに乗り換えて「芸大通」駅下車、徒歩約10分
- ー 愛知環状鉄道「八草」駅下車後、
リニモに乗り換えて「芸大通」駅下車、徒歩約10分
- ー 駐車場の数には限りがございますので、公共交通機関のご利用にご協力ください。



チェンバロ ——— 愛知県立芸術大学 芸術資料館 収蔵品
J.D.デュルケンの1755年制作をモデルに、
イギリスのマーク・スティーブンスンが1985年に製作。
フレミッシュ・スタイル、61鍵、2段鍵盤。

チェンバロ ——— 唐田友裕氏 製作
イギリスの製作家コストンの1725年頃製をモデルに、
2025年唐田友裕氏が製作。
イングリッシュ・スタイル、59鍵、2段鍵盤。

スクエアピアノ ——— 愛知県立芸術大学芸術資料館収蔵品
1850年頃にデンマークのルートヴィヒ・ヴルフ社が製作。
家具としても美しいビジュアル。
家庭やサロン用に省スペースに収まるサイズに作られた。82鍵。

フォルテピアノ ——— 太田垣至氏 製作
ウィーンの製作家ワルターの1795年製をモデルに、
2023年太田垣至氏が製作。
鍵盤は63鍵、ペダルは膝で操作する。
モーツァルトが愛用していたモデル。

愛知県立芸術大学芸術資料館とは、大学構内に建つ、芸術関係の資料収集・保管
および展示を行う、教育に資するための施設。絵画、彫刻やデザイン資料、陶磁器およ
び楽器や音楽関係資料など、収蔵品は多岐にわたる。現在は工事のため休館中。

愛知県立芸術大学

使用楽器



Cembalo



Cembalo



Square Piano



Fortepiano

主催：愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
企画：愛知県立芸術大学 社会連携センター
協賛：一般社団法人 日本ピアノ調律師協会中部支部
助成：公益財団法人 野村財団

トーク&コンサート 鍵盤楽器の製作家を迎えて

芸術資料館収蔵品コンサートシリーズ



太田垣 至 | Itaru Ohtagakki [トークゲスト]

鍵盤楽器製作家。フォルテピアノヤマモトコレクション、久保田チェンバロ工房、C. クラーク（仏）、A. ツェルニン（奥）、フィンチコックス博物館（英）、エドウィン・ブंक（蘭）にてフォルテピアノ製作、修復技術を研鑽。国立音楽大学楽器学資料館、浜松市楽器博物館、河合楽器歴史資料室の鍵盤楽器の管理を任されている。国立音楽大学講師。



©Masashi Hayashi

唐田 友裕 | Tomohiro Carata [トークゲスト]

チェンバロ製作家。チェンバロ製作工房 carata*cembalo 代表。名古屋音楽大学音楽学部音楽学科音楽療法専攻卒業。2009年より名古屋音楽大学演奏部嘱託職員として演奏会運営業務及び楽器室担当職員として勤務。2011年よりクラヴサン工房アダチ安達正浩氏に誘われ、チェンバロ製作及び調律スタッフとして勤務。2016年独立、現在は愛知県蒲郡市に工房を構える。

2026年10月24日（土）

13:30 開場 14:00 開演

愛知県立芸術大学 室内楽ホール

入場無料（事前の申込が必要です）

定員：200名 全自由席

（右のQRコードより申込、定員になり次第締切）

申し込み期限：10月23日（金）23:59まで

お問い合わせ：

愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課

0561-76-2873（平日9:00-17:30）



NOMURA 野村財団

木材を選び、工房に運び入れ、切断し曲げて削って組み立て、弦を張る。

美しく仕上げられたフォルテピアノとチェンバロは、約1年の時間をかけて一人の職人の手仕事によってつくられた芸術作品です。

鍵盤楽器は紀元前にオルガンとして発明されて以来、今から約500年前にチェンバロが、約300年前にフォルテピアノが発明され、

現代の黒いモダンピアノに至るまで様々な変化を経てきました。

その変化の過程で創られた鍵盤楽器をモデルに、現代も楽器をつくる製作家が日本にもいます。

木屑だらけになった工房の中で、今日も鉋をかけながら古の音色に想いを馳せる。

彼らが考える「楽器をつくること」とはどのようなものなのでしょうか。